Copywrite
遊学社　長山　訓

Part1103 ◆得しちゃった気分を数値化する「余剰分析」ーその１

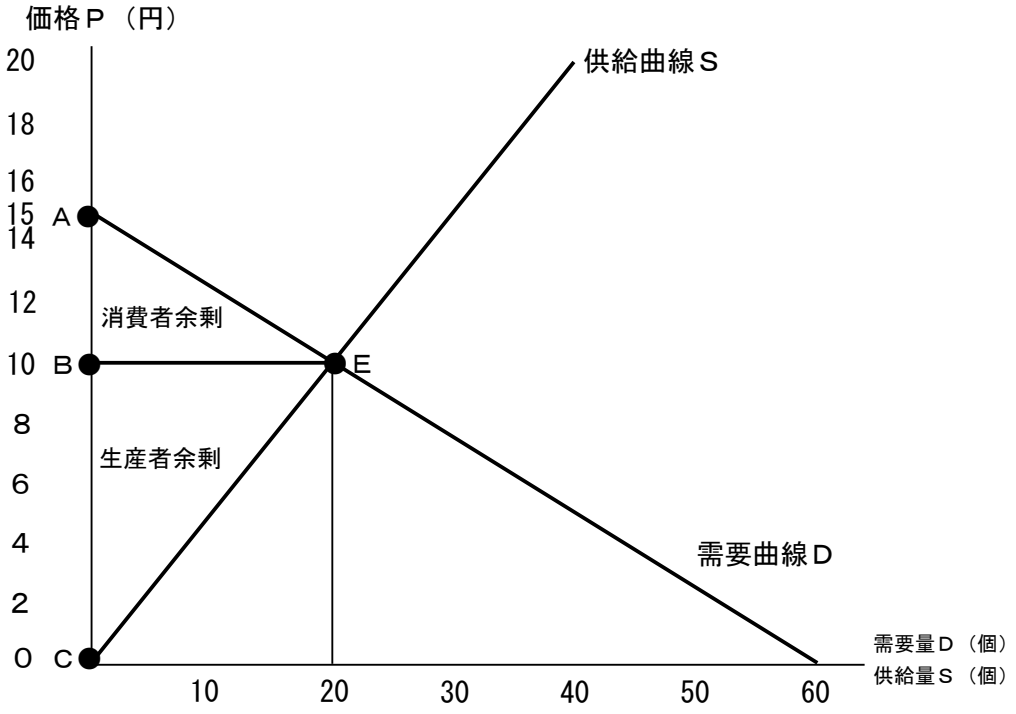
「余剰（よじょう）」とは，市場に参加した人々が取引（売買）によって得る実質的な利益,というよりは,「気分的なお得感」のようなものを意味します。
今回は「消費者余剰」と「生産者余剰」に絞ってお話し，政府余剰とか，厚生損失（政府が税金を課したり，数量規制や価格規制をした場合の市場における損失）については後述します。
なお,「余剰分析」もまた，Part1101，1102 同様に，市場理論の一つです。

１）消費者余剰

先に，需要曲線Ｄについては,「消費者たちの消費（需要）量と需要価格の組合せ」であることを，また，需要価格については,「消費者たちの希望上限価格（この額以下の価格で買いたいと考える価格）で，価格が低いほど消費者が増え，需要量も増える」ということを説明しました。

ですから，市場価格が 10 円であれば,
　　14 円まで支払ってもよいと考えている消費者にとっては４円,
　　12 円まで支払ってもよいと考えている消費者にとっては２円,
それぞれ得したことになります。これは,「思ってたより安くて得しちゃった」という，一種の気分というか，感覚的なものとみることもできますが，これこそが「消費者余剰」です。
その値（大きさは）は，例題 1-1 のケースでは，次図の△ＡＢＥの面積で表わされます。

$$消費者余剰＝△ＡＢＥ＝\frac{ＡＢ×ＢＥ}{2}＝\frac{5×20}{2}＝50$$ となります。



Copywrite
遊学社　長山　訓

２）生産者余剰

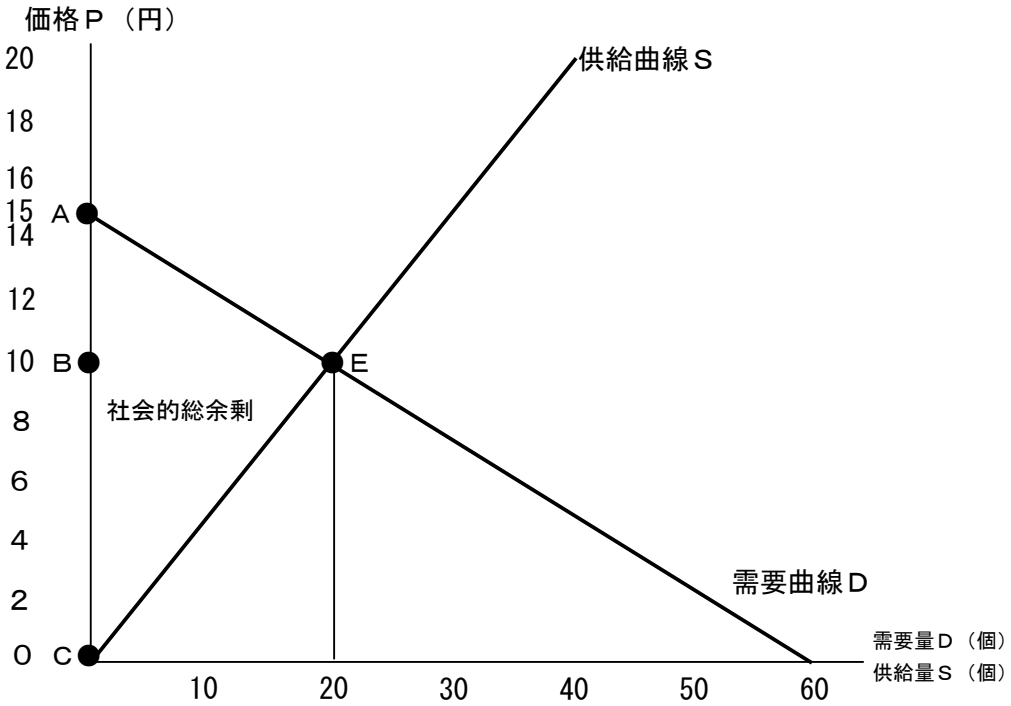
先に，供給曲線Ｓについては，「生産者たちの生産（供給）量と供給価格の組合せ」であることを，また，供給価格については，「生産者たちの希望下限価格（この額以上の価格で売りたいと考える価格）で，価格が高いほど生産者が増え，供給量も増える」とうことを説明しました。

ですから，市場価格が 10 円であれば，
　　６円なら売ってもよいと考えている生産者にとっては４円，
　　８円なら売ってもよいと考えている生産者にとっては２円，
それぞれ得したことになります。これは，「思ってたより高く売れちゃった」という，一種の気分というか，感覚的なものとみることもできますが，これこそが「生産者余剰」です。
その値（大きさは）は，図の△ＡＢＥの面積で表わされます。

生産者余剰＝△ＢＣＥ＝ $\frac{ＢＣ×ＢＥ}{2}$ ＝ $\frac{10 \times 20}{2}$ ＝ 100　となります。

なお，消費者余剰と生産者余剰を合わせたものを「社会（的総）余剰」といい，その値（大きさは）は，図の△ＡＣＥの面積で表わされます。

社会的総余剰＝△ＡＣＥ＝ $\frac{ＡＣ×ＢＥ}{2}$ ＝ $\frac{15 \times 20}{2}$ ＝ 150　となります。



では，Part １の問題 1-1 における消費者余剰，生産者余剰，および社会（的総）余剰を求めてみましょう（正解はこのすぐ右下です）。

※この Part では，例題，問題は設定していません。
　このレベルでの出題はないからです。

問題 1-1 における
　消費者余剰　＝ ９×45× 1/2 ＝202.5
　生産者余剰　＝15×45× 1/2 ＝337.5
　社会的総余剰＝上記２つの和＝ 540